

# 1月1日～2月28日は「はたちの献血」キャンペーンです 「きっと誰かが、だったら私が はたちの献血」



多くの患者さんの病気やケガの治療に使われている血液製剤は、献血で提供された血液から作られています。血液は人工的に造ることができず、長い間保存することもできません。また、献血者の健康を守るため、1人あたりの年間の献血回数や献血量には上限があります。そのため、安定的に血液製剤を届けるためには、日々多くの方の協力が必要です。

## ●献血とは

病気の治療や手術などで輸血を必要としている患者さんの尊いいのちを救うために、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアです。

## ●献血の種類

### ・全血献血 (400ml、200ml)

…血液中のすべての成分を献血する方法。  
採血時間が短い (10～15分程度)。

### ・成分献血

(血小板成分献血・血漿成分献血)

…成分採血装置を用いて、血液の一部を体外に出して血液中の血小板や血漿だけを採取し残りを献血者に返す方法。体内で回復に時間のかかる赤血球は再び体内に戻すため、身体への負担が軽い。採血時間が長い (45～90分)。



## ●献血はどんな場所できる？

### ・献血ルーム

…三重県には、献血ルームサンセリテ (四日市市)、三重県赤十字血液センター (津市)、伊勢献血ルームハートワン (伊勢市) があります。

### ・献血バス

…会社や学校・地域や駅前 (街頭) などで行っています。  
少子高齢化の影響により、主に輸血を必要とする高齢者層が増加し、若い世代が減少しています。

少子高齢化は献血事業にも影響を与えています。10代～30代の若年層の献血者数はこの10年間で約32%も減少しており、このまま減少が進んでいくと、血液の安定供給に支障をきたす恐れがあります。

今後も患者さんに血液を安定的に届けるためには、今まで以上に若い世代の献血へのご理解とご協力が不可欠なのです。

献血は身近でできる大きな社会貢献。この機会に献血に行ってみませんか？

献血について | 日本赤十字社 (jrc.or.jp)

三重県赤十字血液センター | 日本赤十字社 (jrc.or.jp)

## 上手に使おう かかりつけ薬局

その2

町では四日市薬剤師会と協力し、みなさまに安心して薬を服用してもらうために“お薬手帳の活用”“かかりつけ薬局”等について3回にわたってお伝えしています。

12月号では“かかりつけ薬局”についてお伝えしましたが、今月は“かかりつけ薬局”をご利用いただいた方のお声をお伝えします。



Nさん



## 検査値を伝えていたおかげで…

いつもと違う病院に行ったときのこと。  
腎臓の悪い私には合わない薬が処方されていたことに、かかりつけ薬剤師さんがすぐに気付いてくれました。  
いつも検査結果をもらったその都度、薬剤師さんに伝えていたから、私の体質のこともきちんと把握してくれていたんです。  
病院に問い合わせられて私の体質に合う薬に変えてもらえました。  
かかりつけ薬局があって本当に安心しました。

## お薬手帳を忘れてしまったとき…

腰を痛めて整形外科にかかったときのこと。  
処方箋をもって、かかりつけ薬局に行くと、今飲んでる薬と同じ成分のものが今回処方されていると言われました。

“今飲んでる胃薬”と“痛み止めとセットの胃薬”が重なっていたようでした。

よくお薬手帳を忘れてしまうのですが、かかりつけ薬局なら今飲んでる薬をすべて把握してくれているので安心です。

でも今回のことで、お薬手帳の大切さがよく分かりました。



Kさん